



『8月水稻管理について』

1. いもち病について

今年度は、日照不足の影響で「葉いもち」が多くの水田に散見されています。岡山県病害虫防除所からも7月29日にイネいもち病の注意報が発表されています。葉いもちが水田全体へ広がるようであれば防除を行わないと、穂にも感染（穂いもちが発生）し収量減少の原因となりますので注意しましょう。ただし、7月30日に梅雨明けし、今後は気温が上がる予報ですので、まず水田の状態を確認し、広がる心配がなければ出穂期防除まで待ち、出穂期の防除を必ず行いましょう。

いもち病は気温20～25℃で降雨が2～3日以上続くと最も発生しやすくなります。今後も雨が続くなどの条件によっては発生が懸念されますので、いもち病が広がる恐れがある場合は、別添の岡山県病害虫防除所のイネいもち病の注意報を参考に防除を行いましょう。

いもち病防除適期 ※例年通りに天気や気温が推移した場合です。

品種	幼穂形成期	出穂期	防除適期		
			水和剤・粉剤		粒状
			出穂前	出穂後	
きぬむすめ	7/25頃	8/20頃	8/17～18頃	8/24～28頃	8/8～15頃
ヒノヒカリ	8/2頃	8/27頃	8/24～25頃	8/31～9/4頃	8/15～22頃
にこまる	8/3頃	8/28頃	8/25～26頃	9/1～5頃	8/16～23頃
朝日	8/8頃	9/2頃	8/30～31頃	9/6～10頃	8/21～28頃
アケボノ	8/8頃	9/2頃	8/30～31頃	9/6～10頃	8/21～28頃

2. 分けつ不足について

今年度は長期に渡る日照不足により、分けつ不足の水田が認められます。中干し・土用干しを強く行うと分けつが止まってしまいますので、分けつ不足の水田では水を溜めた状態を保つか、晩生品種では、中干し・土用干しを遅らせるのが望ましいでしょう。しかし、幼穂形成期に水不足になると穂に付く籾の数が減ってしまいますので、その場合は、幼穂形成期後の間断灌漑時に干す期間を長めにし、だんだんと作土を固くしましょう。

3. トビイロウンカについて

トビイロウンカについても7月9日に県病害虫防除所より注意報が発表されています。中国大陸からジェット気流に乗り飛来した個体が繁殖して数を増やします。水稻の苗箱に箱施用剤を散布している水田では増殖数が抑えられていますが、残効は徐々に低下していきますので必ず出穂期前後の防除を行いましょう。